



報道各位

**今年も「アンネのバラ」が満開に —フェリス女学院大学 ボランティアセンター
学生スタッフによる「アンネのバラ育成プロジェクト」**

フェリス女学院大学（横浜市泉区、学長：秋岡 陽）では、“For Others（他者のために）”の教育理念に基づき、多くの学生がボランティア活動に参加しています。活動領域は子どもの学習支援、平和・人権活動、地域福祉、環境保全など多岐にわたります（別紙）。中でも「アンネのバラ育成プロジェクト」は、その象徴的な事業であり、来年15周年を迎えるものです。

このバラは、ベルギーの園芸家ヒッポリテ・デルフォルヘ氏が作出した新品種の四季咲きのバラで、“Souvenir d’ Anne Frank” 通称「アンネのバラ」と呼ばれています。「戦争のない、平和な世界に」という願いが込められています。

本学では、本間慎元学長（本学名誉教授）を通して故・黒川万千代氏（当時、ホロコースト教育資料センター副理事長）の協力をいただき、バラ育苗家の山室健治氏より寄贈を受けて、2003年11月に「アンネのバラ園」が作られました。以後、ボランティアセンターの学生スタッフが日々の水やりや剪定等を担当しバラを育成。春から秋まで美しい花を観賞することができます。

また、毎年6月12日のアンネの誕生日に近い日と、バラ園が作られた11月17日頃に平和への願いを込めて記念礼拝が行われています。これらの礼拝も学生スタッフによって運営されています。



【アンネのバラ】

蕾の時は赤色、開花後は黄金色、サーモンピンク、濃いピンクへと様々に色を変える様子にアンネの多くの可能性と平和への祈りが込められています。



【ボランティアセンター学生スタッフ】

バラの育成はボランティアセンターに所属する学生スタッフが担当。専門家のアドバイスを受けながら日々の水やりや除草、剪定等を行っています。



【記念礼拝】

アンネの誕生日に近い日と植樹記念の頃に平和の祈りを込めて行われる記念礼拝も学生スタッフによって運営されています。



ボランティアセンターについて

教育理念「For Others」の精神のもと「新しい時代を切り拓く」女性の育成を目指すフェリス女学院大学では、学生が自ら社会に出て問題を発見し、その解決のために、他の人々と協力しながら行動していく能力を養うため、2003年4月にボランティアセンターを学内に設置。学生個人の自主性に委ねられてきたボランティア活動を、大学としてさらに積極的にサポートしています。

学生によるボランティア活動

